2013年(平成25年)1月13日発行 1

京丹後市 商工会だより

Kyotango

協働・共感で響きあう
まちづくりをLEADする
京丹後市商工会

1
VOL.62

Kyotango City Society of Commerce & Industry

京丹後市商工会 〒627-0012 京都府京丹後市峰山町杉谷836-1
●TEL.0772-62-0342 ●FAX.0772-62-3553
●URL：http://kyotango.kyoto-fsci.or.jp

年頭挨拶

新たなまちづくりと地域経済の健全な発展を目指して

京丹後市商工会
会長　沖田康彦

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、商工会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も相変わりませず、宜しくご支援下さいますようお願い申し上げます。

さて昨年は、不安定な政局の下で、円高への対応やデフレからの脱却及び電力供給に対する不安の解消など、抜本的な景気対策が置き去りにされ、加えて、エネルギー政策はじめとして社会保障の一体改革、領域防衛問題及び消費税増税の是非等々の多くの課題が積み残されたままで推移してしまいました。

この間、地域経済は、こうした内外の要因に翻弄され続けて、容易に景気浮揚の糸口を見い出せないばかりか、企業経営そのものが揺らぐような困難に直面した一年であったように思われます。

こうした中、商工会では、二回に亘って会員事業所への一斉訪問事業を実施するなど、懸命にそれぞれの事業所への支援を強めるとともに、全産業の躍動で地域の活性化を目指してまいりました。

お蔭を持ちまして、中小企業応援隊事業などを通して一定の支援実績を挙げてきていますが、地域経済の縮小には歯止めがかからず、更なる徹底した取り組みの必要を覚えるところであります。

ところで新しい年、平成二十五年は、丹後の国の誕生から一三〇〇年の記念すべき年にあたります。当地域には、確かな伝統と高度な技術力を有する「ものづくり産業」と美しい海岸線や質の高い「食」を売り物にする観光業など多彩の産業が織り交ざっており、今ここで、こうした地域全体を再確認し、新たなまちづくりや地域経済の健全な発展を目指すべきと考えます。

そのために、更に会員ニーズに即した質の高い事業の展開を図り、持てる渾身の力でこの難局を切り開く所存でありますので、一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のご健勝ご繁栄をご祈念申し上げ、年頭にあたり所感の一端を申し述べてご挨拶といたします。

利他の喜び広がる未来を創る
～丹後建国一三〇〇年の年をお迎えし～

京丹後市長　中山泰

あけましておめでとうございます。京丹後市商工会会員の皆様をはじめ、市民の皆様には、平成二十五年の新春を健やかにお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

京丹後市商工会におかれましては、きめ細かな経営支援活動をはじめ、各種研修・経営セミナーや地域活性化イベントの実施、さらに精力的な各部会活動など、地域経済・産業の発展に多大なるご貢献をいただいており、改めて感謝申し上げる次第であります。

振り返りますと昨年は、市長・市議会議員選挙が執行されました。その際私として高く掲げました「新しい時代の豊かな発展への挑戦」を旗印に、本年も心を新たに市政の遂行に全力を挙げてまいります。本市を取り巻く状況は、引き続き、国全体の閉塞感の中で総じて大変厳しい社会経済の状況に直面しておりますが、私は、そういう中だからこそ、将来の発展を展望するにあたり、まずは逆に、来し方を振り返り、改めて古きをたずね、古きを温めて、その上に新しきを創っていく姿勢が大事であると思っています。

このような中で、本年は歴史上「丹後国」が誕生した西暦七一三年から数えて一三〇〇年の「丹後建国一三〇〇年」の大きな節目を迎えます。この一〇〇年に一度の貴重な節目を大切に、一三〇〇年間の歴史にとどまらず、さらに私たちの原点をたずねていく。それは、日本のものづくりのふるさと、コメづくり発祥神話のふるさととして先導的な産業にいそしみ、そして域内外の交流の中心地であった古代丹後王国も栄えた、古代日本のくにづくりにつながる素晴らしい私たちの地域と先人の営みが繰り広げられた原点です。年頭にあたり、市民みんなでその驚異の素晴らしさと計り知れない可能性を共有し、新しくて懐かしい豊かな京丹後の未来づくりにつなげていきます。

来る平成二十六年度には、待望の京都縦貫自動車道や舞鶴若狭道小浜・敦賀間が全線開通し、本市と京都、北大阪、北陸・名古屋との交通アクセスが格段に向上し、いよいよ、北近畿新時代の到来を迎えます。さまざまな本市の伝統産業を引き続き大切に育み、この基礎の上に、本市の豊かな自然環境や再生可能エネルギー生産基盤、健康長寿などの魅力ある諸特色を活用し、これからの我が国のグリーン経済の先進モデルとなるような、京丹後型の〝北近畿新時代における新グリーン経済の構築〟を、商工会会員の皆さんをはじめ市民の皆さん、近隣内外の皆さんとともに着実に実現してまいります。

具体的には、平成二十五年度の早い時期に、企業立地と商工業の総合的な振興を図るための政策の柱となるべき「新条例」の制定を目指し、さらには新条例のもと、企業誘致を始め、産業と雇用の本格的な振興を推進していくための新たな制度、施策も打ち出したいと考えております。

そして、市民お一人お一人の喜びと幸福、市民総幸福の限りない増進と発展を目指して、市民の皆さんをど真ん中に、人と人とのさまざまな絆を大切につなげていく、〝大きな和〟を創るまちづくりを進めます。本年が商工会会員の皆さん、市民の皆さんにとってますます喜びの多い豊かな年でありますよう心からお祈り申し上げまして、新春のごあいさつとさせていただきます。

京都の持つ「力」を生かし、「オール京都」で明日を切り拓こう

京都府知事　山田啓二

京都府の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、ロンドンオリンピックでの京都府ゆかりの選手の活躍や、京都大学　山中伸弥教授のノーベル賞受賞など、府民にとって大変誇らしい出来事のあった年でありました。その一方で、痛ましい交通事故の発生や南部地域での豪雨被害、停滞する経済と厳しい雇用環境、生活保護受給世帯の増加、原子力発電所の安全性をめぐる問題や節電対策など、多くの課題が生じた年でもありました。

昨年の衆議院議員選挙では、エネルギー問題、消費税増税問題、TPP交渉参加問題などを巡って国論が二つに割れ、また領土問題など「対立」が目立った年でもありました。だからこそ、今年は「和をもって貴しとなす」、この言葉を実践する年にしたいと思います。困難な課題が多く、難しい判断が求められますが、巳年となる今年は、蛇行することはあっても、着実に前に進んで行きたいものです。そのために、私どもはこれまで以上に「熟議」し、その上で「判断」し、みんなが心を合わせ、困難に向かって「行動」していかなければなりません。

幸い、京都には、さまざまな機関や団体、そして府民の皆様が連携し、協力して大きな力を発揮するという「オール京都」の風土があります。この「オール京都」による取り組みは、昨年も「古典の日」の法律制定や、「和食」の世界無形文化遺産登録に向けた活動、「京都産業育成コンソーシアム」による中小企業支援、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするための「京都式地域包括ケア」など、すでに多くの分野に及んでいます。

また、地域に暮らす皆様が協働して地域づくりに取り組む「地域力再生プロジェクト」は、この六年間で三千件を上回り、身近な道路などの改善を府民の皆様の提案により行う「府民公募型安心・安全整備事業」は、この四年間で四千五百件にも上るなど、府民の皆様の協力によって地域を豊かにする取り組みが進められました。

府民の皆様お一人お一人が、夢と希望を抱き、生きがいを持って暮らせるような京都をつくっていくためには、こうした取り組みを、府政運営の三つの基本方向である「府民安心の再構築」、「共生社会の実現」、「京都力の発揮」にそって活かしていくことが必要です。

京都には、伝統・文化の力やブランド力、人材やものづくり産業、学術研究の蓄積などの未来を創造する力といった比類なき「力」があります。本年三月には、京都縦貫自動車道の沓掛・大山崎間が開通し、二六年度には全線開通を迎えるとともに、北近畿タンゴ鉄道の再生やJR奈良線の環境整備を進めることで、府民の皆様の力をさらに結集できる条件が整ってきます。

日本全体が大きな構造変化に直面し、未来への道筋を見いだせない今、京都の持つ「力」を存分に発揮するためにも、今年の合い言葉は「オール京都」でいきませんか。

この一年の、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。